

琉球大学学術リポジトリ

そてつのはなし

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大宜見, 朝栄, Ogimi, Choei メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21110

そ
て



つのはなし

ソテツに関する文献から肩のこらない程度のものを
拔出し、これに以前調査した資料を付け足して記載し
てみることにする。

1. 名 称

ソテツの学名はシカス レボルタである。蓋しレ
ボルタはラテン語の外旋の意味で、小葉の両縁部が
裏面に捲き込んでいるためにこのように名付けられ
たのである。昔からソテツは衰弱し枯死しようと
する時、鉄屑を肥料として或は釘を打込むと復活する
といはれるが、今日迄この事に関して科学的研究の行
われ事はない様である。蘇鉄という名称が元でこの
様な事が云われるものか、これが真実（鉄で蘇る）で
この名が起ったものか未だ判然としないが、宮沢文吾
氏は後者の理由のためにソテツを蘇鉄というのであら
うと述べている。蘇鉄は日本であてた漢字で支那には
ない。支那では古い本には鳳尾蕉と書いたものが多
く又、番蕉と書いてあるものもある由だが、何れも
ソテツを指すものか又は一方がソテツで二者異な
るとの説もある（この外にも別名異名がある）。ソ
テツの方言名であるが大島本島では、ソテイツイ、
沖永良部はシトチ、沖縄本島はスチチ、ステイチ
或はスーティーチャ、宮古島はシウツ或はシュツ
ツ、八重山諸島はシチチ、シッチ、シッチヤ、シ
チヂ等である。なお、シトチとい

う方言名は琉球では広く一般に使はれている。都
井（宮崎）、山川・佐田・南方（以上、鹿児島）で
はショテツとも呼んでいる。

2. 形態、根粒

ソテツ茎幹を横断してみると分かる通り中央に
髓（その割合約10）外接して維管束（20）皮戸（30）
鱗片部（二葉痕部40）となっている。茎幹が扁平
となっているのを見られた事があると思うがこれは
帯化現象というもので生長点が帯状に広がる為
に生じたものであらうといわれている。茎幹の表
面（葉痕部）又は切断面に粘っこい液体が存在する
のを私達は屢々、見聞するが、これは茎幹の内皮
および髓にゴム質の溶液を充したゴム道があり又、
角皮戸中に埋もれて蠟分があり、これ等が滲出
してくる為らしい。葉は幼樹にあっては年々数本
ないし十数本新生するに過ぎないが開花樹令に達
すれば開花しない年にもみ数十本の葉を生ずると
いう。都井自生地における一管理人の言によれば
葉は春、秋年2回発生する。又品種も葉で区分す
る様な事をいわれていた。ソテツが直根性か側根
性かは文献にも見当らない様であるが、挿木およ
び幼樹について観察した所では、元来直根系に属
するのではないかと思はれた。ソテツは雌雄異株
であるが、花、果実或はそれらの残骸が附着して
いない場合、その区

別は外観的には困難ではないかと思はれる。雄花を写した写真は実に芸術的な作品であるが雌花も開花結実した状態をカラーで撮映すると見ごたえのあるものに仕上げるのではなからうか。カメラフアンは是非試みられたい。ソテツの地表面又はこれ近い根の部分に根粒（三好学氏は藻根と名付けている。）が形成される事は古くから注目され、色々内外の学者が各種論文を発表している。ソテツの根粒内には藻類の外に糸状菌、細菌類の存在が報告されているが、個々の内生菌の純粋分離と接種試験についての問題は何ら解決されていない現状で根粒内の窒素固定作用についても疑問とされている。しかしこれまで研究の対象として最も注目されて来た根粒内に見られる藻類は、根粒根成に対して第2次的なものとみなすのが妥当と思はれる。

3. 分 布

ソテツ科には9属約80種が知られているが、そのうちソテツ属はアジア、アフリカ、マレーシア、北オーストラリアに約15種分布している。我国には1種類所謂ソテツが見受けられるのみである。我国以外には自生せず我国固有の植物であるソテツは琉球といわず鹿児島県下特に大島列島を始め九州・四国の南端から和歌山、伊豆海岸・小笠原すなはち直接黒潮の影響を受ける諸地方で植栽されているがその自然的分布はごく狭い範囲に限定されその北限は薩摩、大隅両半島の南端で、南部は八重山諸島までを以て限界としている。ソテツ自生地北限地帯を三好学氏は次の四地区であるといっている。(1) 鹿児島県揖宿郡山川町竹山および赤水鼻、(2) 同、川辺郡南方村、(3) 同、肝属郡佐多村および内浦村（川上何れも大正12年3月、天然記念物指定）(4) 宮崎県南那珂郡都井村（大正10年3月、天然記念物指定）。ソテツの葉は米国では葬式用に使用され日本でも寺院に多数植栽され巨樹になり天然記念物に指定されているものもあるがこの事は両者何等かの因縁があるのだろうか。沖縄で老樹名

木として昭和十年頃、中頭郡読谷村字伊良皆には推定年令300年、胸囲1.3 m 樹高5.5 m のソテツがあった様であるが今はどうなっているか又、これに匹敵するソテツが現在あるかどうか知らない。

4. 庭木、盆栽

ソテツが庭木或は盆栽として利用されている事は周知の事実である。ソテツが何時頃から庭園上に現はれたかという事は十分に分らないが足利時代から植えられていたのではないかという説もある。庭木としてその価値を左右する条件は葉により支配される事が大きいという。中村園芸場（宮崎）で聞いた所によると茎幹に空洞、損傷がなく枝分れさえ見映えがよければ後は葉の如何で決定されとの事であった。すなはちイ）葉軸が直線的でなく適当に湾曲したもの ロ）小葉が主軸に比し適当の長さであること ハ）小葉間の巨離が比較的長いもの ニ）小葉が適当に波打ちそりかえっているもの ホ）葉が粗大でなくグロテスクな感じを与えないもの 以上は大体の目安であるがこれ等の諸条件を具備しているものは優良であるという。葉は申分ないが枝分れに不足があるものは他樹より適当の大きさの枝をもぎとり該樹に梅雨時に接ぐ事も行われる。茎幹表面を金具にて掻き葉痕部の蘇苔・地衣類・鹿埃を清浄し、旧葉を切り落す時は新鮮な感じを吾々に与えるものである。ソテツを戸外に植栽して冬期放置し得る北限地は駿河および伊豆であり東京地方では冬期藁囲をなし凍害を防ぐ必要があるといはれる次に盆栽であるがこれは幹の太さが上下一様で細く而も何本か幹の集合したもので茎頂に多数細かい葉を叢生した物が良いという。又比較的幹が小型で幹の余り伸びない性質のものがよく、鱗片の小さいもの程樹令が経過し販売価値も上るとの事で見映えを良くする為に庭木同様、側芽（通称いぼ又は子という。不定芽）を接ぐ事も行はれている。盆栽としてソテツを仕立てる場合、実生苗では生育が遅い為に商売にはならず、

そこで茎幹表面に発生している側芽を利用するか又は分蘖により生じた株を分けて育成する。地中に埋没している蘖中には優秀なものが見られる事がある。なお、移植する時、根を大部分切断すると葉柄が短くなり盆栽として優良なものが出る。鉢植する場合、培養土は肥沃土より赤土と砂を混ぜた土を用いて棒で土を搗き込んで堅く植えてやるのがよい。

5. 増 殖

ソテツは非常に適応力が強大で湿地を除く外はどんなやせ地、岩山にもよく生育し本島北部の辺土でソテツ郡落を見る様に特に石灰岩地質に適するといはれ播種、挿木、分蘖、植樹等何れの増殖法によっても安易に増やし得るものである。

イ) 播 種

取播は成積が芳しくないといわれる。種子は授精が起らない前に己に立派に形が出来上り且つ朱紅色を呈するので早く果実を採取すると内に胚が形成されないのは勿論、後日になっても出来ない。従って発芽しないので採取期の検討が必要と思はれる。自生地では接地しておけば芽を出すのが被土すればなおよい。地下性発芽であり、稚菌時代は光線が強く当たらない様にし且つ除草に注意して育成すべきである。因みに開花結果は6月、7月の頃である。果実の採取時期は沖永良部では旧暦8月15日以降、大島本島は10月、11月頃より採取に着手するが沖縄では一般にこれより早い。なお、ソテツは隔年毎開花結実するとされ、一株に結実する種子の容量は1升から5升程度である。

ロ) 挿 木 (側芽挿)

側芽を茎幹表面から掻取り植付ける方法で基部に若干覆土する。例の粒っこい液体が発根を阻害するという訳で少し基部を焼くといふ様である。これは茎幹、枝の場合も同様である。側芽挿を2年間に亘り実施した事があるがその結果のあらましを記してみる。試料は淡褐色ないし黒褐色略々球形で経2cmから5cm、計500本である。1) 深植は芳しくないが一般に

覆土の程度が活着にさほど影響するとは思われない。

2) 環境の整理(特に排水)と不定芽内容の充実如何が生育に重要な因子であると考えられた。

3) 不定芽は両年度共、未発芽(葉)のものを採取した。挿付後活着したものは初年度75%、2年度50%であった。供試側芽の茎の大小には関係しない。

4) 根系の発達は土壤その他の因子により生態的な差が考えられるとは言え、該苗畑(植壤土)では発葉以前に根系が非常によく伸長し、葉軸より主根長が大なるものが多い。根の発生の状態であるが、これは側芽が母樹茎幹表面に着生し、その生育の為に養分を吸収する通路であったと見られる珊瑚体が掻取られた事により新器官が形成されるいはば再生として主根が生ずると考えられその基部が分枝して2ないし数本の白色珊瑚体の根系が形成されるものと思われた。主根および支根には往々枝根が若干見受けられる。

5) 活着しないものを観察すると白色珊瑚体の根元が腐敗し赤褐色を呈している。更に腐敗が進むと不定芽の内容が空となる。以上要するにソテツの側芽挿は不定芽内容の充実したものを使用し、環境に注意する事により一層高い活着率を期待することが出来ると思はれた。

ハ) 分 蘖

株分法であり、壮老樹より秋期生育の止ったところで分けるとよい。

ニ) 植 樹

ソテツの場合、根や葉を全部剪定し植付けても発根生長する性質を有するもので、従って丸太の状態で荷造りし琉球から東京へ輸送された事もあるという。株全部海波に洗はれても根や茎幹共に潮害を受ける事が皆無といわれる。根がなくとも発根する事は確實であり従って茎幹、枝を適當の大きさに横断、徒断したものを接地、覆土してもこれより不定芽の発生がみられ繁殖を図る事が出来る。(大宜見朝栄)

農家便り10月号（NO. 107）の正誤表

頁	欄	行	誤	正
3	左	3	直径12.5cm	直径12.5cm
”	”	”	重さ6000g	重さ678g
4	”	7	粗切れ更に	粗切し更に
”	”	14	小孔の径0.02インチ	小孔の径0.02インチ
5	”	12	PH3.3～3.5	PH3.3～3.5
”	”	最下行	製品貯蔵性を	製品の貯蔵性を
6	右	22以下		10頁左欄の最後に挿入
9	左	21	稚菌時代	稚苗時代